怪奇な話

吉田健一

中央公論社

怪奇な話

昭和五十二年十一月一日　印刷
昭和五十二年十一月十日　發行

著者　吉田健一
發行者　高梨茂
印刷所　精興社

發行所　中央公論社
東京都中央區京橋二―一
電話（五六一）五九二一
振替東京二―三四

©一九七七
檢印廢止

怪奇な話　目次

山運び　7
お化け　33
酒の精　59
月　83
幽霊　107

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

老人　133
流轉　157
化けもの屋敷　183
瀬戸内海　207

怪奇な話

山運び

リラダンによれば生きるといふやうなことは召使に任せて置けばいいことになる。その召使といふものをこの頃は餘り見掛けなくてその觀念そのものが薄れつつある時にその召使といふのがどこかにゐてもそれがさうなのかどうか直ぐには決め難いに違ひない。要するに人に使はれるのが召使、それを使ふ方が主人といふのがこの消え去つた一つの制度の最も簡單な說明でさうすると今日でも主人と召使は幾らでもゐることが解り、それも同じ人間が召使になつたり主人になつたりしてゐる譯であるが身分として召使といふことを殆ど聞かなくなつたことからそれを聞くと混亂するものもゐる。リラダンはただ自分の傍にゐて身の廻りの世話をしてゐた男のことを言つてゐるのである。

又リラダンがさういふことを言つたのも理解出來ないことはない。その關心は生きるといふやうなことと違つた所にあつたので少くともその臺詞が出て來る芝居が目指すものは一種の東洋的な神祕の世界だつた。その爲に生きてゐるのならば生きるといふやうなことは召使に任せ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

て置けばすむ。又さういふことが目的である人間もゐないことはなくて曾ては錬金術師といふものがあつて魔法使ひもゐた。それが今日ではもうゐなくなつたと言へるものかどうか解らない。この頃聞かされる最も愚劣な言ひ方の一つに今は人工衛星の時代といふのがあつて人工衛星だからどうしたのか、それで人間が息もしなければ酒も飲まなくて男女の縺れも消え去つたのかといふ所まで書けばそれだけでも書き過ぎになる。更に又魔法そのものが目的でなくても魔法を使ふといふこともあり得る。これは考へて見れば重寶なことで普通は出來ないことが出來るならば兎に角それだけ手間が省ける。それだからこそ魔法なのであつて科學に掛けなければならない手間を思へば科學は魔法として落第である。

それでここで又召使のことに戻らなければならない。今日でも殊に一時的にであるならば召使の役を勤めるものは幾らでもゐても主人の傍に始終付いてゐてその爲に用を足す召使といふものは社長の祕書といふ人種の中で人權に對する理解がないもの位しか頭に浮ばない譯である。併し魔法を使ふだけでなくて魔法、或は魔法めいたことに情熱を注ぐものにとつてはどうしてもその方が先になつて生きるといふことをするのに割く時間が惜まれるから自分の代りにそれをやつてくれる召使が必要になる。それが自分の代りに息をしたり消化したりするといふ所までは行かなくても少くとも拭き掃除に洗濯に食事の用意といふやうなことは召使の役目になつ

てその他に魔法を行ふのにも助手がゐるのは便利なものであるからそれも頼むことにするのは自然のなり行きである。その召使の代りに魔法を使つてもよささうなものであるが魔法が目的である時にこれをどうでもいいやうなことに用ゐる氣になれないのは文士にとつて手紙を書くのが苦手であるのと同じである。

この話の主人公は生きてゐる目的が魔法にあつてその限りでは魔法使ひだつた。併しそのことに移る前にもう少しこの召使の問題に就て書くことが必要であつて召使といふのは自分の傍に始終ゐてくれて便利であるがそれが人間であれば自然にその能力にも限度がある。それは主人の代りを勤めるのみならず自分自身も生きて行かなければならないからで主人が興に乘つて星と星をぶつけることを思ひ立つた時にそれに使ふ各種の箒を順に主人に手渡す役の召使が疲れ果てて熟睡してゐては天體の運行に支障を來すことは出來ない。そのこともあつてこの話の主人公が召使にしてゐたのは人間でなくて小惡魔だつた。この小惡魔といふのが惡魔の中でどういふ地位にあるものか實はよく解らない。その世界の階級制度が煩雜を極めるものだからであるが大體の所ではその小といふ字が示す通りにそれ程高い地位を占めてゐないものと考へてよささうである。

その正體といふことになればこの小惡魔がその形を取る前は主人の城の近くにある森にゐた

山雀だつた。これが變身したのはこの城持ちの魔法使ひが仕事をしてゐるのをそこの窓まで來て覗いてゐるうちに自分もさういふことがして見たいといふ氣を起したのに何か特殊に切なるものがあつたからで或る瞬間に山雀は窓ガラスを通り拔けて今の小惡魔になつて立つてゐた。それに幸なことに、或は魔法使ひにとつては幸にも人間以外の動物といふのは天性が素直なものでそれが變身してからも殘つてゐたから小惡魔は人が言ふことをよく聞いて使ひ易かつた。これが多少は小さ目な人間の恰好をして野鳥が飛び廻る所を思はせて行き來する樣子に巧まない愛嬌もあつて魔法使ひが魔法に染つて心が全く捩ぢくれるといふやうなことが起つたのでない限り小惡魔を可愛く思つてゐるといふこともなかつたとは言へない。それにどう思つてもこれは小惡魔だつたからその世話に手を掛けることもなかつた。寧ろ手が掛ることは何もなくて食べものその他凡て自給自足だつた。

城とか魔法使ひとかいふことが出て來ることからこれが昔の話であると思ふ必要は少しもない。さうした懸念が生じるのも今日の我が國のやうに今日の時代といふのが問答無用で又正體不明の猛威を振つてゐる所はないからであるが日本を一歩出れば今日の時代といふのが要するに今のこと、從つて今よりも十年前からすればその十年後、千年先からすればその千年前の時期を指すのが常識であつていつまでたつてもさういふものが今であることに變りはないから今

日の時代だからと言つても城もあればそこに住んでゐる人間もゐて誰もそのことに文句を付けるものはない。それでは魔法使ひの方はどうか。これが一時は不當に恐れられてゐたことがあつてその恐怖自體が根も葉もないものであることが解つてからは魔法が否定されたのでなくてそれが話の種、その又少し後では新聞種にならなくなつてそれでこの頃は餘り魔法や魔法使ひのことを聞かないだけのことである。それに魔法に情熱を傾けてゐるものならば折角の勉强の邪魔をされたくないからそのことで記者會見をしたり放送したりしないからそこにも壁が出來てゐる。

その山雀の小惡魔を召使にしてゐる魔法使ひの城はフランス西部の海岸を見降す森林地帶にあつた。曾て大魔法使ひのメルランが歴史に名を殘した所であるがここではエドマンド・ウィルソンの前例に倣つてこの話の魔法使ひが住んでゐたのをアクセルの城と呼んでもいい。併しこの魔法使ひは傳說や文藝評論と餘り關係がない人間でその生れ付きや城の圖書室にあつた本の種類もあつて初めは城から眺められる海の潮の滿ち干を普通よりも少し早くしたり遲くしたりするのに興味を持つ程度のことに止つてゐた。併し一つのことが何でもなく出來るやうになればその次はそれよりも難しいことといふのがかういふ趣味が辿る徑路であつてそれは蒐集癖がある人間が一つのものを手に入れれば又別なものを手に入れるまでは落ち着かないのに似て

ゐる。それで一時は魔法使ひが自分の所を離れて方々の海の滿潮時と干潮時を變更するのに熱中したこともあつた。又さういふ時にも小惡魔は重寶でニースならばニースの町まで魔法使ひを運びもすればホテルの部屋の豫約までした。更に幸なことに潮の滿ち干に使ふ魔法の道具は嵩張らなかつた。

そのニースでこの科學風に言へば實驗をやつたのは他の場所でもこれをやつてその度毎に成功するのに味を占めた後でそれが生憎のことにニースのやうな風光明媚の町は學會を開くのに適してゐて丁度その時にも海洋學者の大會が行はれてゐた。それを知らずに魔法使ひは滿潮時を三時間ばかり遲らせて惡いことは重なるものでそのことに氣付いた學者がその誤差を測りまでした。幾ら滿潮時といふやうなものが精密に測れるもの、或は恆久的に一定したものでなくても三時間の遲れは大き過ぎる。それで騷動になつて天災地變說まで飛び出し、その爲に魔法使ひは新聞を見るだけでもいや氣が差して潮の滿ち干をいぢくるのは止めることに決めた。さういふ時に實はと言つて名告りを上げるのは自分がしてゐることに本當に情熱を持つてゐない人間がすることである。兎に角それで魔法使ひは自分の力が使へる何か他のことを探さなければならなくなつた。まだ魔法使ひはどういふことでも出來てそれで何をするといふ氣も起さないでゐられる域に達してゐなかつた。

魔法使ひといふのは字劃が多くて書くのが面倒だからこの男をアクセルと呼ぶことにする。それがアクセルの城に住んでゐだのだからアクセルで構はない筈である。アクセルは暫くの間は一つの目的に魔法を使ふといふことをしないでただ自分に何が出來るか驗して見てゐた。又それはその時まで知らなかつた味を覺えさせるものでアクセルが爐に燃えてゐる火にそれ自體が變りたいものに變れる魔法を掛けると火の代りに不思議な蜥蜴のやうな動物が現れて魔法を解くと又そこに火が燃え出した。或は日が差し込んでゐる窓にその魔法を使ふと窓ガラスが精巧な彩りと陰翳の色ガラスに變つてアクセルはその城が曾ては要塞の設備をした僧院だつたことを思ひ出した。その設備は僧院を守るのが目的でアクセルがゐる部屋が禮拜堂だつたのに違ひなかつた。それならばいつそのことその城全體をもとの僧院に戻して中世紀のさういふ場所に就て傳へられてゐる暴飲暴食の日々を送ることにしたらとも思つたが僧院で行はれることが暴飲暴食だつたかどうか解らないので念の爲にこれは止めて置いた。

召使の小惡魔の方もアクセルがやつてゐることを眞似て椅子を細い木の切り株に變へたりしたが自分がもとの山雀に戻らなかつたのは今の狀態に滿足してゐる印とも見られた。アクセル自身が自分に魔法を掛けた所がいつもよりも少し大きな自分になつたのに驚いてもとの自分に戻つた。これも自分に魔法が使へる範圍が段々擴つて行くのを知つての滿足を示すものとも考

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com